

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月1日

【評価実施概要】

事業所番号	0192200020		
法人名	社会福祉法人 黒松内つくし園		
事業所名	社会福祉法人 黒松内つくし園 グループホーム縁ゆかりー		
所在地	〒044-0033 虻田郡倶知安町南3条西1丁目17 (電話) 0136-55-5007		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月16日	評価確定日	平成22年4月1日

【情報提供票より】(平成 22年 1月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	21年	3月	31日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8人	常勤	7人,	非常勤 1人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り	
	3階建ての	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000・30,000・32,000円	その他の経費(月額)	8,000~13,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250円	昼食 350円
	夕食	400円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(1月14日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79.5歳	最低	55歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	J A 北海道厚生連倶知安厚生病院、柏谷歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、倶知安町の国道5号線に面しており交通の利便が良い立地で、開設1年を迎えている。建物の3階に事業所があり、2階には同一法人の他のグループホーム、さらに1階には喫茶店がある。地域の要望を受け、家庭的な雰囲気の中で安心して地域の中で暮らすことのできるグループホームを目指し、職員が一丸となってケアを行っている。母体である社会福祉法人の理念を踏まえ、経験や知識を活用しながら落ち着いた雰囲気と安定した介護技術で利用者の生活を支えている。地域住民が集う複合施設という利点を活かし、様々な年代の住民との触れあいがある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価となる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めての自己評価ということもあり、併設のグループホームと共同で自己評価に取り組んでいる。自己評価の結果を職員が確認し、今後のケアにどのように結び付けるかなどの検討を行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は毎月開催し、利用者家族や町内会員、民生委員、行政担当者が参加している。会議では、事業所の様子や行事等の報告を行い、事業所の課題について意見を交わしている。事業所は参加者から意見を引き出すように働きかけ、出された希望や意見をもとに事業所で検討を行い、家族等が楽しめる行事を行うなど、よりよい事業所運営や改善に結び付けている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日ごろから家族との信頼関係を大切にし、何でも話し合える関係を作るよう心がけている。家族の来訪時や家族も参加できる行事を行ったり、運営推進会議への参加を促すなど、多くの接点を設け、様々な機会を捉えて意見や希望を汲み取るようにしている。寄せられた意見等は職員で共有し、対応を行っている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>1階が喫茶店で、地域の子育て世代や学童期の子供たち、ボランティア等が集う拠点ともなっている。町内会活動などにより、近隣の商店や住民との関係も徐々に深まりつつある。また、近くの学校の行事に参加したり、喫茶店に遊びに来た子供たちの訪問や花などの寄贈を受けるなど、地域で認知されており、交流も日常的に行っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の設立時に、法人理念を踏まえ事業所でどのようなケアを提供していくのかを話し合い、併設のグループホームと共通の基本理念とケア理念を定めている。	○	地域の中で、利用者をどのように支えていくかという思いは込められているが、理念における文章化には至っていない。地域密着型サービスとしての役割を踏まえながら事業所としての独自の理念を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所開設時にどのようなケアを目指すのかを話し合っている。また、毎朝のミーティングで理念の唱和を行うなど職員一人ひとりが日常的に意識し実践できる機会を設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者とともに行事に参加したり、併設の喫茶店の活用や学校行事に参加するなど機会を捉えて地域との交流を行っている。今後は、地域住民と共に楽しむ祭りの開催を計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、併設のグループホームと共同で行っている。自己評価結果を職員と共に確認し、今後のケアにどのように結び付けるかを検討している。	○	自己評価は、事業所ごとに職員が全員で取り組むことが重要となる。管理者だけでなく、職員も一緒に取り組むことで各職員の考え方やケアの方向性について共通の理解を持ち、今後のケアにつなげていく取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を毎月開催し、利用者家族や町内会、民生員や行政担当者が参加し、事業所の幅広い話題について意見を交換している。会議で話し合ったことは事業所でも検討を行い、職員が共有するとともに改善などに結び付けている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所開設時から、多様な機能を持つ複合施設として、倶知安町や各専門機関との連携を大切にしている。管理者は、毎月、倶知安町の担当者への報告と情報交換を行い、適切な運営のための取り組みや、利用者へのサービスの質の向上に活かすようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には職員が積極的に利用者の生活状況や健康状態を伝えている。毎月、併設事業所と共同で発行する「陽だまり通信」と利用者の生活の様子を写真で綴った「縁だより」を発行している。また、地域の様子が分かるように倶知安地区の広報誌も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の苦情受付機関を明示し、投書しやすいよう配慮した意見箱を設置している。運営推進会議や家族の来訪時などに、意見や苦情を受け付けていることを伝えている。家族等との信頼関係を大切にし、意見等があった場合は速やかに検討し、実施や改善を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員との定期的な面談を行い、悩みや目標達成への助言など、意欲を持って向上できるように配慮し、離職を防ぐ取組みを行っている。異動等があった場合は職員への引継ぎを十分に行うとともに、利用者に向けた方法で混乱を最小限に抑えるようチームで対応することとなっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設時、利用者より職員が多く人員に余裕があったので、理念に基づくケアについての実践的な研修を行えている。事業計画の中に研修を組み込んでおり、今後は、職員の希望なども取り入れ法人内や地域の研修を活用していくこととなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、倶知安町が主催するケアカンファレンスに地域の介護事業者と共に参加し、情報収集を行っている。事業所の母体である社会福祉法人の施設での職員研修の予定やグループホーム協議会への加入など、開設1年を迎え徐々にネットワークづくりと人材交流を行う予定となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた場合は、見学を勧め、利用者宅などを訪問し、グループホームについて丁寧に説明している。利用初期には、家族と相談しながら、利用者が安心できるように家に一緒に出かけたり、携帯電話でいつでも連絡を取れるようにしたりと、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用前から収集した生活歴や利用者と一緒に生活する中で得られた情報をもとに、一人ひとりの能力に応じた役割や手伝いを依頼している。利用者から生活の知恵を学び、職員が感謝を伝えるなど、互いに感謝し、支えあいながら信頼関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の人格を尊重し、何気ない会話の中や事前に把握した情報と共に利用者の行動から、その時の思いや意向の把握に努めている。職員間で思いや意向を共有し記録に残すとともに、検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を引き出し、希望を踏まえながら、介護計画を作成している。日々の記録に蓄積された利用者の暮らしぶりの中から職員が得た様々な気付きも盛り込み、課題や支援の方向性について話し合い、本人本位に検討しながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はおおむね3ヶ月ごとにモニタリングを行い、見直しの検討を行っている。利用者に変化があった場合は、医療や関係機関との連携を取りながら、随時、変更を行うこととなっている。今後は、より良い介護計画の立案と実施や検証を行うために、職員がケアプランについて学び理解を深める予定となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の利用開始前の友人関係などに配慮し、来訪の際は1階の喫茶を活用したり、手紙や電話の支援を行っている。また、通院や利用者の自宅を見に行ったり、温泉に出かけたりと、利用者の希望を受け様々な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の方針として、家族や利用者の意思を尊重し、利用開始前からの主治医への受診を基本としている。利用開始前から連携医療機関の医師を主治医としている利用者もおり、継続して医療が受けられるよう支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、家族や利用者と重度化や終末期に関する話し合いを行っている。事業所として看護職員の確保など、重度化に対応する準備を進めている。また、事業所としての理念と方針を定めており、職員間で共有している。今後は関係機関との連携を深めるなどの体制づくりを検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念とともに全てのケアに、利用者の尊厳に配慮した対応が浸透するよう日常的に取組みを行っている。職員は就職時に個人情報保護の研修を受けている。個人記録等は鍵のかかる書庫で保管するなど、取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるものの、利用者の希望に沿って入浴や外出などを支援している。食事の時間等も利用者の体調や気分によって対応しており、酒やタバコなどの嗜好品についても安全や健康に配慮しながら支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や見た目も大切にしながら、食べる喜びを感じられるよう配慮している。家庭で食べる料理や楽しい雰囲気大切に、利用者の食べたいものを献立に取り入れている。また、能力に合わせてながら食事の準備や後片付けを職員と利用者が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しており、利用者の希望に合わせて支援している。季節によって柚子の果実を湯に浮かべたり、併設施設の風呂を利用するなど、気分を変えながら、楽しく入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味などに合わせ遊具を設置したり、地域の学校から寄贈された花の植え替えなどを行っている。また、生活歴や趣味に配慮し、事業所の近隣に畑を借りて今春から野菜づくりを予定している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の意向があった場合には職員が付き添いながらの買い物や自宅を見に行くなど、日常的に支援をしている。1階の喫茶店の利用や羊蹄山を望みながらの散歩など、天気や体調に配慮しながら外に出る機会を多く設けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。夜間は午後7時から防犯のため施錠を行っている。職員は身体拘束の廃止の研修を受講し、施錠の弊害についても理解している。外に出るためには1階の喫茶店を通るため、多くの目で見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間を想定した避難訓練を実施しており、今回は夜間想定で行う予定となっている。また、事業所の併設施設との連絡、協力体制を整備している。緊急時の職員一人ひとりの救命や避難器具操作などが今後の課題となっている。	○	事業所は建物の3階に位置するため、避難器具の操作を含め職員の研修、訓練は欠かすことができない。今後は、地域住民などの協力を得ながら季節や時間帯を含め様々な災害を想定した訓練が期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの、その日の体調などに合わせ、食事の形状や声かけなどに配慮した、きめ細やかな食事の提供を行っている。摂食量と水分摂取量の記録を行い、利用者の活動状況に合わせて調整を行っている。	○	家庭的な、栄養バランスに配慮した食事が提供されているが、利用者の特性なども踏まえ、定期的に栄養士等の助言を受け、献立や栄養摂取などについて検討していくことが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、清潔なバリアフリーの建物となっており、廊下など必要な個所に手すりを配置している。季節感を大切に装飾を利用者と一緒に飾り、家庭的な暖かい雰囲気となっている。パソコンなど趣味や遊びの道具がいつでも利用できるようになっており、居間や廊下に面してソファを置くなど、利用者が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が利用開始前の生活を継続できるよう配慮し、使い慣れた家具や趣味の品物を利用し、一人ひとりに合わせて部屋を整えている。安全や暖房設備や換気に配慮している。また、居室に個別に固定電話が引けるように予め配線している。		

※  は、重点項目。